

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 設備の更新	② 施策番号	6104
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 上水道の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
上下水道部	上下水道総務課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	上水道設備
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	上水道設備の更新及び耐震化することで、安全な水の安定供給をはかる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	施設設備管路の老朽化が進み、更新投資の必要性があり、財源確保が重要となっている。国、府において一定の交付金制度が設けられているが、交付対象の情報収集や、より多くの団体と共同で要望活動が必要な現状である。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 講習会・研修会等参加回数 計算式:	回	景気や人口減少による水需要が減少しそれに伴い、収益が悪化し、老朽管更新や耐震化事業の進捗を妨げる現状にある。そのことから近隣事業所・上部団体との連携をはかり、情報共有や効率的な事業運営を実現するための先進技能の習得をはかるため。
② 各部会参加回数 計算式:	回	景気の悪化や人口減少による水需要の減少から、企業経営に関する知識大切であるとともに、老朽管の更新や耐震化事業を進めるうえで、先進技能の習得が重要となり、近隣市町と情報を共有しながら効率的に実施するため。
③ 計算式:		

指標名	単位		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 講習会・研修会等参加回数	回	目標値	9	8	9	9		
		実績値	1	4	4	—		
		達成率	11.1%	50.0%	44.4%			
② 各部会参加回数	回	目標値	9	9	8	8		
		実績値	8	8	8	—		
		達成率	88.9%	88.9%	100.0%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化		
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性	
1	水道事業運営事務事業	当年度純利益	千円	252410	194797	135975	307,709	339,423	0	A	ウ	H30	▲
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
計	1						307,709	339,423	0				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	近隣及び全国の上水道事業者と連携することにより、情報収集力を高めるとともに、速やかに国等の動きに素早く対応することができ、また、財源確保や費用対効果の高い工法等の情報を得ることで効率的に上水道設備を更新・耐震化することができ、より安全な水の安定供給となり、上水道の充実をはかることができる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	全国規模の研修会等除き、講習会・研修会にほぼ参加し、確実に情報の収集が図られている。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	上水道事業者の横のつながりであるため、直接に市民、団体と関与することはない。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	適正である。今後、大阪広域水道企業団への統合を検討している事業者との連携強化を進める。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	平成31年4月、大阪広域水道企業団と統合するため。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	水道施設の老朽化が進み、更新投資が見込まれ、財源確保が大きな課題となる。上水道事業者や大阪広域水道企業団が連携して情報収集を行い、国・府対して有効な施策の創設を行うよう、要望活動を進める。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	大阪広域水道企業団との統合を検討している関係事業者と連携を深め、平成31年4月に事業統合をはかる。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	—
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	広域化に向けた適切な取組により、大阪広域水道企業団への統合が適切に行われた。	